

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2372101481
法人名	平成 フードサプライ 有限会社
事業所名	グループホーム 岡崎若松の家
訪問調査日	平成 20 年 8 月 5 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 3 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2372101481
法人名	平成フードサプライ株式会社
事業所名	グループホーム岡崎 若松の家
所在地	愛知県岡崎市若松町字川向7番地の1 (電話) 0564-71-2210

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山一丁目11番16号		
訪問調査日	平成20年8月5日	評価確定日	平成20年10月3日

【情報提供票より】(20年7月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	6月	1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人			
職員数	15 人	常勤	7 人,	非常勤	8 人,	常勤換算	2.25 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,500 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名	
要介護1	6 名	要介護2	3 名			
要介護3	6 名	要介護4	3 名			
要介護5	2 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	80 歳	最低	44 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たかせ歯科
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな住宅地の一角にある平屋建て2ユニットのグループホーム。玄関をはさんで、左右1ユニットずつ並んでおり、玄関近くの家庭菜園に心が和む。家庭的な雰囲気が漂い、スタッフの笑顔が気持ちよく利用者の表情はみな穏やかである。「ゆっくり」「いっしょに」「楽しく」暮らせるグループホームであることがうかがえる。利用者スタッフの信頼関係が築かれ、家族のように助け合う中でスタッフは生活の知恵を教わることも多いといい、和やかな雰囲気が心地よい。職員の研修は年2回母体法人の研修や研修補助制度もありそれがスキルアップにつながっている。

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①ケアプランの見直し②地域とのより良い関係作り③入浴の時間帯の改善の3点が主な課題であった。①・②については、すでに取り組みが進められているが、③についてはスタッフの勤務時間の問題も含むため、改善に向けて検討中である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>フロア毎にみんなで各項目を話し合い、各フロアのリーダーが書き出したものを管理者がまとめた。今後もみんなでよく話し合いながら問題点の改善に向けていきたい。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>推進会議では、事業所の活動報告や今後の展開、利用者の状況報告、問題点や課題について話し合われる。会議で出された意見は月一回の定例の職員会議で報告され、必要事項を検討し、サービスの向上につなげている。</p>
	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>常に家族と連携をとりながら、「若松通信」や意見箱の設置などで、いい関係が築けるよう心掛けている。</p>
	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との連携は、今後の課題のひとつであり、地域の行事などへの参加を心掛けている。</p>

2. 評価結果(詳細)

取り組みを期待したい項目

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念は目下検討中であるが、現在は利用者と職員が一緒に考え作り上げた「第二の住まい」である。	○	地域に根づく理念をぜひ実現されることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「理念」は玄関及び各フロアに掲示されている。家族のように、できることを共に助け合いながら、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「お祭り」など、地域の行事にはできるだけ参加するよう心掛けている。また、近隣の人がホームに立ち寄ってもらえるようになってきており、地域との交流は少しずつ出来つつある。	○	運営推進会議への参加により、少しずつではあるが地域とのかかわりに進展が見られるようになってきている。スタッフの益々の努力に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各フロア一全員で話し合いリーダーがまとめている。それにより家族とのやり取りで職員間の差があるのがわかり、職員で検討して改善している。前回の外部評価での改善はケアプランの見直しなどであり、その人の状態に応じて2ヶ月毎や6ヶ月の見直しに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎の開催となっている。事業所の活動報告や入居状況から始まり地震の際ホームとしての対応等その他様々な意見交換が活発に行われている。出された意見や要望はサービスの質に反映している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	諸手続きで窓口に向く際には、担当者と話す機会を作り、質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	月1回家族に「若松通信」の各利用者の必要な情報を記入し、定期的に送付している。また、家族の来訪時に利用者の日常の生活ぶりや身体状況を報告している。金銭管理も個別に出納帳を作り領収書を添え訪問時に家族に報告している。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	「意見箱」を設置して家族からの要望や意見がもらえるように配慮している。また、職員は家族の来訪時にも要望や意見などももらえるような雰囲気を作るよう努めている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	馴染みの職員が継続的に支えられるように配慮している。また、ユニット間の職員の異動は無いがホームで顔馴染みとなっており、協力体制はできており利用者のダメージは少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内の研修は年2回ある。ホームに様々な福祉に関するFAXが届き管理者は職員が受講したい希望がある場合勤務形態を配慮するなど受講できるよう努めている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	同法人の施設を見学したり、グループホーム連絡協議会に参加して交流を図りサービスの質の向上に反映している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人や家族にホームを見学してもらい、納得の行く入居をしてもらっている。利用者が施設の入居が初めての人は職員や他の利用者と馴染むまで、家族にホームに頻りに顔を出してもらい安心してもらえるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除や花の水やり、草むしりなど利用者と関わり合いながら、生活の知恵を教えてもらっている。また日常生活の会話の中で昔話を聞いて教わることもある。共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者とのコミュニケーションを取りながら思いや意向の把握に努めている。意思疎通の難しい人には、日常生活の中で表情を見たり、家族に相談して出来るだけ希望に添うようにしている。外出したい人には職員と一緒に買い物に出かけたり、歌をうたったり。短歌を作ったりなどその人に合う支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は家族の意見・要望や業務日誌、利用者個々の申し送りノートを下に職員の気付きなどを踏まえ月1回職員会議を開き作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は入居した月から6ヶ月ほどは毎月見直し更新しており、利用者の現状にあった計画書を作成している。それからは利用者各人の状態に合わせて2ヶ月～6ヶ月の見直しとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族で定期的に宿泊する人には布団の準備をしてゆっくり休んでもらう配慮をしている。通院で家族対応が困難な場合職員が付き添いをしている。またリハビリの職員の往診もあり利用者の身体維持にも配慮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を協力医に変更のお願いをしているが、入居前のかかりつけ医の人もいる。かかりつけ医の通院は家族の対応となっており、事業所から医師に伝言がある場合メモを家族に渡して返事をもらっている。また家族の対応が困難の場合は職員が付き添い、薬や医師からの伝言は家族に連絡している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については入居時に家族に説明している。医療行為が必要になった場合は家族と相談して他の病院や施設をお願いしている。他に施設に変わる場合は情報提供して利用者が少しでも安心して過せるよう配慮している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関しては家族に説明して同意を得て、また、職員にも入社時に同意書を取っている。職員は人生の先輩である利用者を尊敬しており、プライバシーを損ねるような対応はしていない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の1日の生活パターンはできているが、日によって様子を見ながら根気良く待つて対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は利用者のできる範囲の配膳、盛り付け、後片付けなど行ってもらっている。食事は利用者と同じものは食べていないが、同じテーブルで食事介助しながら食べこぼしなどサポートしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は14時ごろからとなっており、ゆっくり入ってもらう。毎日入浴する人もいるが、ほとんどが1日おきとなっている。入浴拒否の人の場合声をかける時間をずらしたりスタッフをかえたり工夫するがダメな時もある。しかし、入浴拒否は3日迄として必ず入浴してもらえるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯物たたみ、草むしり、など利用者は自由に自然体で動いている。短歌を作ったり、家庭菜園の成長も楽しみのひとつとなっている。毎日のラジオ体操は身体維持に役立っており、職員は利用者の状況を把握してその人に合う支援を心がけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や喫茶店などや、毎日夕方になると近隣に散歩に出かけたりしている。外のベンチに腰掛て利用者同士ゆっくり寛いだりもしている。年間行事の中にファミリーレストランや回転すしなどの外食や季節を感じる花見などもあり利用者の気晴らしの支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵は基本的にはかけないが、利用者が不穏になり職員が入浴介助などで人手不足の場合などはやむを得ず施錠する時はある。しかしほんの数分であり、職員は利用者が外出をしそうな時には一緒に出かけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回6、12月に行っている。6月には夜間に避難訓練を行い、自力で避難できない人には職員が利用者をシートに乗せて引っ張るなどの訓練や初期消火の訓練をしている。地域の協力はこれからの課題となっている。	○	近隣へは日頃から協力を得られるように働きかけることを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の栄養バランスは概ねとれている。食事量や水分摂取量は1日の水分量が記載されてわかり易いものとなっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには利用者の写真や季節を感じさせる作品が飾られ、ソファやテレビ、テーブル、椅子などが設置してあり、利用者がテレビを観てのんびり過している。外にはベンチもあり利用者の寛げる場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はスッキリしているが、写真や衣類など利用者の馴染みの物があり居心地の良い場所となっている。		